

## 「地獄の法」からの学び(2023年1月1日発刊)

担当：石田 2023年1月29日

- まえがき：恐ろしい本。姿を変えた「救世の法」。読んだか否か別の世界の入口で尋問。
- 1 一章：(靈言や神秘現象など)宗教的真実は不变だが、地上論理(政治的圧力)で捻じ曲がる。
- 2 六道輪廻(地獄、餓鬼、畜生など)は真実。その人に最善ならば畜生 人間も有る。
- 3 自然科学の発達で宗教が衰退迷信化、地獄を教える場所がなくなった。蘭学の科学的目的
- 4 地上で何を考え、何を行ったのか、その「カルマ」が来世を決定する。=仏教の本質。
- 5 あの世(Part2)否定思考では、死後に行く場所がなく、浮遊するしかない。一種の地獄。
- 6 二章：閻魔の法廷では「思い」「行い」「心の声」が隠せない。信仰心無き者はみな地獄へ。
- 7 親を決める、肉体は清い宮。思想犯の罪は大、無間地獄に隔離。Part2には人権なし。
- 8 三章：地獄界に繋がる心の三毒。「貪」「瞋」「癡」掃除する作業が三学修行「戒」「定」「慧」
- 9 「慢」「疑」「悪見」、医学や科学の既存知識に拘って、宗教真理から外れた心を持つな。
- 10 四章：キリスト教の地獄・煉獄に見る心の狭さ。日本は善惡の区別が弱く、民度が低い？菅原道真・平将門の怨霊を祀り上げ祟りを防ぐ姿勢。角川春樹 = 平将門(映画「天と地と」)
- 11 対悪魔には「この世の常識」や「縁起の理法」で見抜く力が重要。悪霊教団の書籍は捨てる。一方、ソクラテスの靈言は「黄金の光」放出。左脳が弱いと失敗。科学でも因果の逆転。
- 12 五章：救世主からのメッセージ かつてない地球の危機。地球意識が不快感を持っている。
- 13 米の主張は「民主主義と専制主義の戦い」、現実は科学万能主義的唯物論の蔓延(梅爺)
- 14 民主主義の条件は、神を信じ、神の子としての良心に基づく自覺的行動。しかし、人口増 必ず『物』を求めて戦争。「食糧」「エネルギー」「資源」等の戦争が起きてきた。白人による植民地政策は収奪、オオヒルメ・天照の精神はハヌ一宇、No less oblige とは真逆の精神構造。
- 15 『法治主義』は「民主主義」から生まれたが、国家維持を図るためにAIによる監視社会となったり、国家毎の「法」の違いから「敵味方」に分裂し、戦争になる危険性が現れる。
- 16 神不在の近代以降の政治システム、行政システムの弱点が現れて、非常に危険である。
- 17 また人口増に伴い、マスメディアの情報伝達・判断に依存する社会、かつマスメディアに神の声が届かない時代。政権側FBI・CIAとGAFAによるトランプ(信仰者)の言論封殺。
- 18 最も憂いでいることは、人類の大半が天国・地獄(Part2)を知らずに地上を去ること、地獄人口が「魂総計」の過半数を超えるなら、地球の善惡の価値観が逆転する。暴力的集團
- 19 「神仏の願う価値観」と正反対に統治されて地獄界と直通になる。その時地上の魂修行が不可能、「転生システム」が止まる《止める》。地上の生存が不可能となる事態が発生。
- 20 さらに、「宇宙存在者の中に、地上の指導者に対して影響力を持つ者がいる」ことに無知(悪質宇宙人)。宇宙の暗黒のパワーが介入し始めている、これを抑止する方法が必要。
- 21 放置すれば、次々に寄生(DSへのウォークイン)が継続。天使の下生が困難になる。今後天上界の警告が降りるが、地上人間が無視するなら代償。Trumpの目的は悪魔崇拜のDS一掃
- 22 現状・事実をよく見て認識せよ。悪魔の星にしてはならない。元首相案暗殺の真相も未解決
- 23 人間に宿る光は神の魂の欠片(ご神体)。神仏の存在を信仰する本能がある。(「無限の愛とは何か」)最終決戦の非は近づいているが、光の勢力が弱く、悪の勢力が地下茎のように広がっていて残念。思想戦で引っくり返せない場合は、人類の絶滅もある。大陸の陥没は突然起こる。
- 24 EL.C 信仰を立て、四正道を実践せよ(悪質宇宙人ウォークイン不可能)。今最終危機を戦っていることを信ぜよ。太陽の光のような愛に目覚めよ。(参考:天照・オオヒルメムチの教え)
- あとがき：この世で『大』なる者は『小』、『小』なるものは『大』となる。地獄へ行くな。